

三井不動産の食品産業の課題解決や付加価値創造に向けた取り組み『&mog by Mitsui Fudosan』の一環として、食領域で事業を展開する5社を対象にクリエイティブ制作体験イベントをトライアル的に実施した。各社は自社の商品を持ち込み、UMEZOOtableのクリエイティブチームによる個別の撮影を受けた。

2024年5月10日(金) 食品業界におけるクリエイティブ制作体験イベント実施概要

【目的】

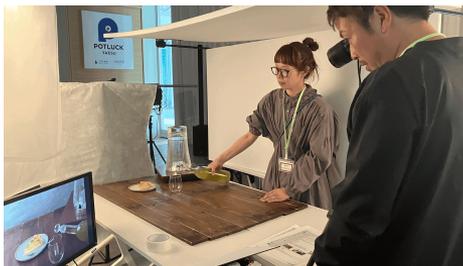
- ▷食プレイヤーが抱える事業開発上の課題に対してハードとソフトの両面から支援する &mogの取り組みの一つとして、クリエイティブの重要性やその領域に対してリソースが足りていない企業を支援することを目的とする。
- ▷参加企業の反応、得られた示唆、そして課題と改善点について情報を整理・分析することで、支援サービスの品質向上と、価格設定の最適化に役立てる。

【当日のアジェンダ】

- ①会場入り
- ②イベントキックオフ
- ③各社撮影
- ④制作物点検
- ⑤会場撤収



撮影風景全体像



クリエイティブチーム

【参加企業】

株式会社 Sydecas

株式会社 食の会

REDD inc.

株式会社 ディッシュウィル

株式会社 マチルダ

【関連企業】

株式会社 シグマクシス

国分グループ本社株式会社

株式会社 ARCO plus

実際の撮影の一部を用いた写真の特徴と、撮影に於いての工夫の解説



『THE NUTS BAR』
株式会社Sydecas

SNS、web向けのパッケージ写真。ナッツバーという商材の特性に合わせて、斜め上からの柔らかい光を当てることで自然光を再現。半透明のパッケージの下の写り込みを考慮し、バスケットに入れるスタイリングを採用。



『エビチリとブロッコリー』
株式会社マチルダ

インスタグラムを始めとするSNS用写真。『元気で楽しい、だけどホッとする料理をお届けする』をテーマとしている。角の丸い八角の器を使用することで家庭感を醸し出した。クロスの色と料理の色を寄せている事にも着目したい。



『採光の工夫』

仮説ブースを設置したスタジオは自然光の採光が難しいため、常用灯とストロボを併用した。また、スタジオの天井が高く光が回りにくいということが懸念された。カポック (大型のレフ板) を使用して低い天井を作ることで課題をクリアしたカメラマンの知識と工夫にも着目したい。

イベントを通じて得られた知見

参加企業の反応: 気軽に参加でき、商品の魅力を引き出せたとの評価多数。クリエイティブパートナーの必要性を実感。

課題と改善点: フードスタイリストやカメラマンの役割への理解促進、多様なニーズや予算への対応。

撮影時間確保事前準備の徹底、独自の世界観を反映した撮影の実現。

食品業界のクリエイティブ制作支援の可能性

近年消費者との接点が多様化し、企業側はあらゆる接点での見え方を考慮しなければならなくなりました。SNSやWebサイト、ECなどのデジタル広告の普及により、誰でも簡単に低価格で広告を打てる時代になりました。その反面、スマホ普及による縦型広告の見え方など考慮しなければならないことが増えています。

特に食品は直接体内に取り入れるので単なる商品ではなく、人々の健康や生活に直結します。クリエイティブにもそれに応じた配慮が求められ、家庭用、外食産業、ビジネス用の営業資料など様々な利用シーンを想定した表現力が必要不可欠です。また、生鮮食品は時間の経過とともに劣化していくため、ベストなタイミングで撮影するテクニックが重要になります。

これは食に限ったことではありませんが、物が飽和する時代では品質の良さはもちろんのこと、魅せ方で人々の感情に訴えることが出来ればユーザーが手に取る機会は増えます。大手企業の商品に対して資本で不利であるスタートアップ企業の商品は、クリエイティブの力で逆転できる可能性があると考えています。

しかし、全ての企業がクリエイティブ領域に十分なリソースを割くことは容易ではありません。優れたクリエイティブを生み出すには専門家の知見やスキル、設備などが必要不可欠ですが、限られた資金や人材では自社内でそれらを全て賄うことは難しいのが実情です。そのような中、三井不動産がクリエイティブ領域での支援を行うことは非常に心強いことだと思います。

今後『&mog by Mitsui Fudosan』には、特にスタートアップ企業の食のクリエイティブ領域における課題解決のパートナーとして大いに期待しています。クリエイティブの力を活用することで世界に誇るべき日本の食文化の新たな可能性を切り拓き、より多くの価値を生み出していけると信じています。

(UMEZOOtable株式会社 梅津信吾)

